

 「市長と地域ふれあいトーク」を実施

 常磐地区・内郷地区

 11/29(金)


▲「童謡のまちづくり市民会議」の皆さん



▲「内郷まちづくり市民会議」の皆さん

 常磐地区・内郷地区で開催

#常磐 #内郷 #まちづくり #歴史 #童謡 #防災対策

11月29日、今年度最後となる「市長と地域ふれあいトーク」を開催しました。

常磐地区では「童謡のまちづくり市民会議」の皆さんと、童謡館の歴史や野口雨情と湯本温泉のつながり等について意見交換した後、参加者全員で雨情が作詞した「シャボン玉」などの童謡3曲を歌いました。

内郷地区では「内郷まちづくり市民会議」の皆さんと、これまでの活動内容や防災対策、魅力あるまちづくりについて意見交換しました。



■写真1 親戚・隣近所の人たちが七五三を祝う・遠野町入
遠野 [昭和49 (1974) 年11月 高橋久美子氏提供]



■写真2 家族で七五三を祝う・立錡鹿島神社
[令和4 (2022) 年10月 いわきジャーナル撮影]

7歳、5歳、3歳の時に祝う「七五三」は、平安時代後期にその原型が生まれました。かつては乳幼児の死亡率が高かったことを背景に、それぞれめでたい年齢まで元気に育つたことを祝う習慣が根付いたものです。

参詣するのは近隣の寺社などで、祝儀物として千歳飴が境内付近で売られました。その長さが子どもの長生きを象徴する菓子として江戸時代に売り出され、以後人気を集めました。

年齢と男女の組み合わせはいわき地方も含め地域によって異なり、呼び方も祝い方も異なっていました。

令和5 (2023) 年、NHKの番組「チコちゃんに叱られる」で、七五三を親戚・隣近所を招いて盛大に行う地域が紹介されましたが、年配者に話を聞くと、いわき地方でも農村部を中心に行われていたと複数人からの証言があり、写真も出てきました。

今では、身内だけで行うのが一般的で、11月15日にもこだわっていないようです。

(いわき地域学會 小宅幸一)

写真が語る「いわき」の歴史

